



○卒業式式辞

(前段略) *式典とは表現等を一部変えています。

中学3年生から影響が大きくなったコロナ禍の生活は、高校生活がはじまっても続き、休校やマスク着用の日々は、ともすれば仲間との「心の壁」を感じることもあったと思います。今、みなさんはそれを乗り越え深まった絆を感じているのではないのでしょうか。



今年の始まりに能登半島地震がありました。被災地の一日も早い復興と、被災された方々のご冥福と心の復興・回復を願うばかりです。

3学期始業式で、避難所での生活に少し触れました。災害時、日本に住み働く外国の方は、集団生活となる避難所で様々な壁を感じるそうです。言葉の壁はもちろん、日本人との習慣や文化の違いからくる壁、国籍や在留資格などに起因する援助制度の壁などです。しかし、お互いを理解することで乗り越えることができる壁もあります。それは、一番高く乗り越えないといけない壁でもある心の壁です。心の壁は、言葉がわかるとって乗り越えられるものではありません。お互いを知ろうとするかどうかです。

これからみなさんは、外国の方も含め多様な人々多くの人々と関わり助け合い協力しながら生きていくことになります。

松江東高校は、「自分らしいライフデザインの実現を目指す生徒」、「持続可能な社会を創造する地域共創人」を育てたい生徒像とし、身につけさせたい力の一つに、多様な人とつながる力、多文化協働力を掲げています。

松江東高校でコロナ禍の高校生活を過ごしたみなさんは、心の壁を乗り越える力がどの世代よりも、どの高校生よりもあると思っています。卒業生のみなさんが、これから出会うたくさん人たちと心の壁なく、心と力を合わせ、豊かな未来の社会を、地域共創人として作っていつてくれることを願っています。

在校生のみなさんは今、先輩の姿に自分の将来の姿を重ね合わせ、憧れも抱きながら、先輩たちの旅立ちを祝福していることと思います。

卒業生とその保護者や家族、教職員、在校生、来賓の方をはじめこれまで支援や協力いただいたすべての方々が、それぞれの思いを重ね合わせる卒業式。卒業生の成長によりもたらされる互いの喜びを分かち合い感謝の気持ちを伝え合うという卒業式の意義の一つを、参列者一同が今年はいより深く感じているのではないのでしょうか。

「向かい風をつかめ!」。毎年卒業式の式辞でこの言葉を贈っています。コロナ禍で放映されたNHKの朝ドラに「舞いあがれ!」があります。向かい風を受けてこそ大きく飛べると信じ、何事もあきらめずがんばるヒロインの姿を通して、明るい未来がこの先にきっとあるという希望を届けるドラマでした。飛行機も、凧も向かい風を利用します。向かい風により大きく舞い上がります。ヨットも向か風を利用して前に進むことができます。

「向かい風をつかめ!」。卒業生のみなさんに、この言葉を贈り、式辞とします。